

2017年

1月21日(土)

14:00~15:30

「ブラジル移民」

▶講師：宮澤 之祐さん

(長岡京市立長岡中学校教員 / 元神戸新聞記者)

▶場所：海外移住と文化の交流センター

神戸港は、日本の玄関として多くの人を迎え入れると同時に、多くの人を送り出してきました。そのなかには世界各地へ移民として渡っていった人がたくさんいました。

日本の海外集団移民は1868(明治元)年のハワイ移民に始まります。その後、ハワイをはじめ北米、東アジア、東南アジア、オセアニアなどに多くの人々が渡ることになりました。しかし、20世紀に入ると米国、カナダ、オーストラリアなどで日本人移民への排斥運動が盛んになり、日本政府や受け入れ国側が移民を制限していきます。そうして、移民送出先が限られるなか、ブラジルが新たな移民先として注目されることになりました。ブラジルへの最初の移民は日露戦争後のことで、1908年4月28日、781名が神戸港から笠戸丸に乗船し、ブラジルへ渡りました。

ブラジルへ移民する人たちは乗船港の神戸に集合し、渡航しました。手続きが終わってから乗船するまで宿に泊まる必要があり、家族もいることから大きな出費となっていました。そこで政府は1928年、神戸の山手に国立神戸移民収容所を開設します。最大10日間の宿泊が可能で費用は無料でした。戦後、高度成長によって移民の希望者が減少し、1971年、最後の移民船ぶらじる丸の出航をもって閉鎖されました(何度か名称を変更し、閉鎖時は神戸移住センター)。



海外移住と文化の交流センター

今回のセミナーではブラジル移民と、移民が築いた日系社会について、元神戸新聞記者で長岡京市立長岡中学校教員の宮澤之祐さんにご講演いただきます。会場は移住センターの建物を活用した「海外移住と文化の交流センター」となっており、無料で見学が可能です。



神戸メリケンパークにあるブラジル移民を記念した「希望の船出像」

▶参加資料代：【一般】800円 【会員・定期購読・学生】500円

第6回

「被差別部落の四類型

— 一同対審答申から50年を経て —

講師：小林 文広さん

(同志社大学教授)

日時：2017年3月4日(土)

場所：のじぎく会館(ふれあいルーム)

※参加資料代：【一般】800円

【会員・定期購読者・学生】500円

※講師、内容等が変更になる場合もございます。ご了承ください。フィールドワーク以外の回は当日参加も受け付けますが、できるだけ事前にお申込みください。

▶お申込み・お問い合わせ

ひょうご部落解放・人権研究所

電話：078-252-8280

mail：blrhyg@extra.ocn.ne.jp